



2024 北部九州インターハイ

光星 8強ならず

バスケット男子

全国高校総体（インターハイ）がありがとうを強さに委せて、北部九州総体で惜敗。チーム初の8強進出を逃した。卓球は男子のシングルスを行い、青森県勢は、バスケットボール男子の八学らが1回戦で敗れた。

光星が3回戦で報徳学園（兵庫）と対戦し2点差で惜敗。チーム初の8強進出を逃した。卓球は男子のシングルスを行い、青森県勢は、バスケットボール男子の八学らが1回戦で敗れた。

剣道女子団体の東義は準決勝で代表戦の末に敗れ、3位だった。登山団体は男子の工大一が44位、女子の八戸が22位だった。

テニス女子シングルスで夏坂海夕愛（八戸西）、工藤帆稀（工大一）がともに1回戦敗退、アーチェリー男子団体の青森山田は決勝ラウンドへ駒を進めた。

7日は各地で計6競技が行われる。

（磯野雄太郎、松橋広幸）

バスケットボール

福岡県福水ハワズアリーナ
 △男子3回戦

報徳学園	49	1414	14
八学光星	129	1318	47

光星学院



強みの速攻封じられる

焦点

バスケットボール男子の八学光星は、2点差で8強の夢が散った。留学生センターがいるチーム同士、点を取り合う予想とは反したロスコアゲームの中で攻めあぐね、最終盤をものにできなかった。佐々木彰彦コーチは「あと少しのところは

追い上げるも最終盤及ばず

自分の責任」とうなだれた。報徳学園（兵庫）は八学光星の強みである早い攻撃を徹底的に分析。守備の戻りを早くし、速攻を封じた。これで攻撃の歯車が狂ったのか、八学光星は第2クォーター（Q）にわずかに2点、12点を追う劣勢となった。第3Q、ゾーンディフェンスに切り替えて相手の攻撃を止めると、徐々に

に追い上げる。「自分がチームを勝たせる」と果敢に攻め込んだ主将・越田伊吹の得点もあり、1回戦で相手に3点シュートを許し、越田の得点で1点差に迫るも再逆転はかなわなかった。目標の全国8強に再挑戦できるのは、冬の全国高校選手権（ウィンターカップ）。「負けを絶対に忘れないためにも、目に焼き付けておこうと思つて」と試合終了後しばらく、天井を見つめていた越田。「持ち味を磨きつつ課題を突き詰めて、絶対にベスト8に行く」と冬への覚悟を決めた。（磯野雄太郎）

【バスケットボール・男子3回戦・報徳学園（兵庫）対八学光星】第4クォーター、八学光星は越田伊吹（右）がジャンプシュートを決め、38-37と一時逆転する。

福岡市総合体育館

第4Qは残り3分を切り、尾崎空悟のリバウンドに対して相手留学生が個人5つ目のファウルを犯して退場。有利になったかに思われたが、同点の場面で相手に3点シュートを許し、越田の得点で1点差に迫るも再逆転はかなわなかった。目標の全国8強に再挑戦できるのは、冬の全国高校選手権（ウィンターカップ）。「負けを絶対に忘れないためにも、目に焼き付けておこうと思つて」と試合終了後しばらく、天井を見つめていた越田。「持ち味を磨きつつ課題を突き詰めて、絶対にベスト8に行く」と冬への覚悟を決めた。（磯野雄太郎）



第4クォーター、リバウンドで貢献した八学光星の尾崎空悟（左）。3点シュートを決め、43-41に